

【引受保険会社】



〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

変額保険

グローバルミックス

月次運用レポート

2014年2月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式 50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ALM & 特別勘定運用部が行います。)	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)	
		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) (適格機関投資家私募)	
債券 50%			

※ 特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険

特別勘定の月次運用レポート (2014年2月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2014年2月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が前月末比0.74%下落の1,211.66ポイントで終了しました。

月前半は、米国で1月のISM(全米供給管理協会)製造業景況指数が市場予想を下回ったことなどから下落しましたが、その後は米国の1月の失業率が改善する一方で米国の1月の小売売上高が市場予想を下回るなど、経済指標がまちまちだったことなどからもみ合いとなりました。月後半も、日本銀行が金融機関向けの貸出支援基金の延長・拡充を決定したことなどが好感され上昇する一方、中国の経済指標の悪化などを背景に下落するなどもみ合いとなりました。

業種別(東証33業種)では、原油価格の上昇を受け、「鉱業」(前月末比+4.13%)が最も上昇した一方、オフィス賃料回復の遅れを受けて「不動産業」(同▲7.75%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、月前半、1月のISM製造業景況指数が市場予想を下回り、また中国の製造業PMI(購買担当者指数)の悪化もあり下落しましたが、その後、失業率の低下や、イエレンFRB(米連邦準備制度理事会)議長の発言により金融政策の継続性が確認されたことなどから上昇しました。月後半は、1月の新築住宅販売件数が改善したことなどから上昇し、NYダウは、前月末比3.97%上昇の16,321.71ドルで終了しました。

欧州株式市場は、月前半、米国の1月のISM製造業景況指数が市場予想を下回り、また中国の製造業PMIの悪化などもあり下落しましたが、その後、ユーロ圏10-12月期GDP(国内総生産)速報値が市場予想を上回ったことなどから上昇しました。月後半は、ifo経済研究所が発表した2月の景況指数が市場予想に反して4ヵ月連続の改善となったことなどから上昇し、市場別騰落率は、英FT100が前月末比4.60%上昇、仏CAC40が同5.82%上昇、独DAXが同4.14%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、月前半、国内株式市場の下落や国債需給の逼迫などを背景に、金利は低下(価格は上昇)しました。月後半も、40年国債入札が堅調な結果となったことや米国の長期金利低下などを受けて低下しました。新発10年国債利回り、月末は0.580%となりました(前月末は0.620%)。

日銀はマネタリーベースが年間約60~70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、月前半、1月のISM製造業景況指数が市場予想を下回ったことなどから、金利は低下(価格は上昇)しましたが、その後、イエレンFRB議長の発言により金融政策の継続性が確認されたことなどから上昇(価格は下落)しました。月後半は、ウクライナ情勢の不透明感を背景に安全資産需要が高まったことなどから低下しましたが、米10年国債利回りは、月末は2.648%となりました(前月末は2.644%)。

欧州債券市場は、月前半、米国で1月のISM製造業景況指数が市場予想を下回ったことなどから、金利は低下(価格は上昇)しましたが、その後、ECB(欧州中央銀行)理事会で金融政策が据え置かれたことなどから上昇(価格は下落)しました。月後半は、ウクライナ情勢への懸念が高まったことなどから低下し、独10年国債利回りは、月末は1.624%となりました(前月末は1.659%)。

FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0~0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年0.25%を維持しました。

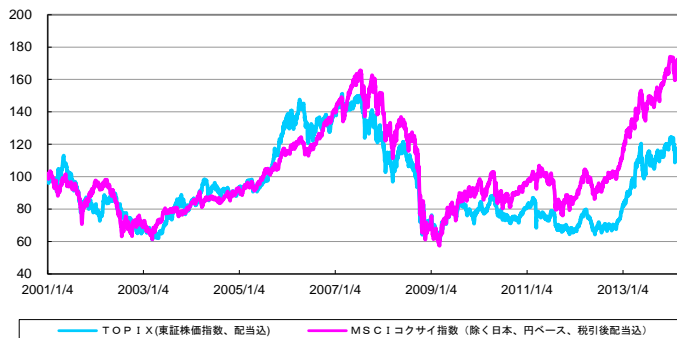
【外国為替市場】

米ドル/円相場は、月前半、米国で1月のISM製造業景況指数が市場予想を下回ったことなどから円高となりましたが、その後、イエレンFRB議長の発言により金融政策の継続性が確認されたことなどから円安の動きとなりました。月後半は、日本銀行による貸出支援基金の延長・拡充の決定などを受けて国内株式市場が上昇したことなどから円安が進行しましたが、その後、ウクライナ情勢の不透明感を背景にリスク回避の動きが強まったことなどから円高となり、円は対ドルで前月末比92銭(0.89%)円高ドル安の1ドル=101円94銭となりました。

ユーロ/円相場は、月前半、米国で1月のISM製造業景況指数が市場予想を下回ったことなどから円高となりましたが、その後、ECBが金融政策を据え置いたことなどにより円安となりました。月後半は、日本銀行による貸出支援基金の延長・拡充の決定などを受けて円安となった後、ウクライナ情勢の不透明感を背景に円高の動きとなりましたが、円は対ユーロで前月末比31銭(0.22%)円安ユーロ高の1ユーロ=139円75銭となりました。

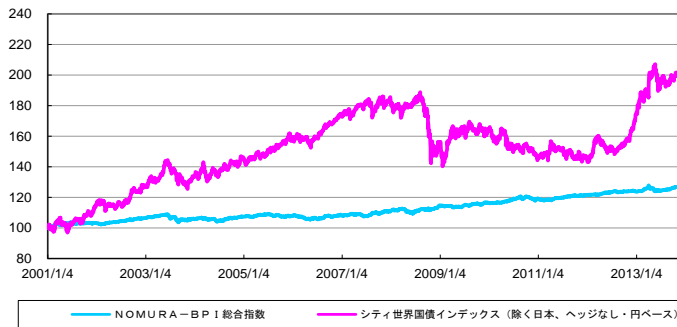
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

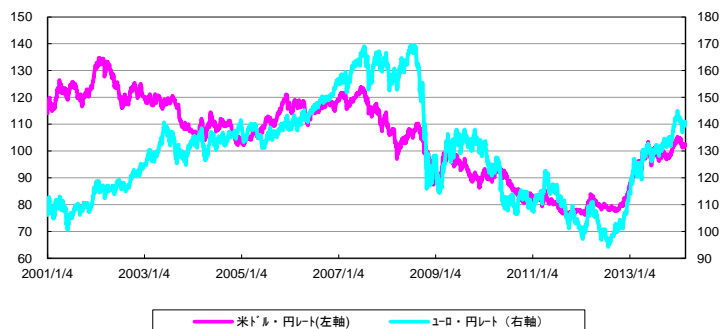


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所:株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場中値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

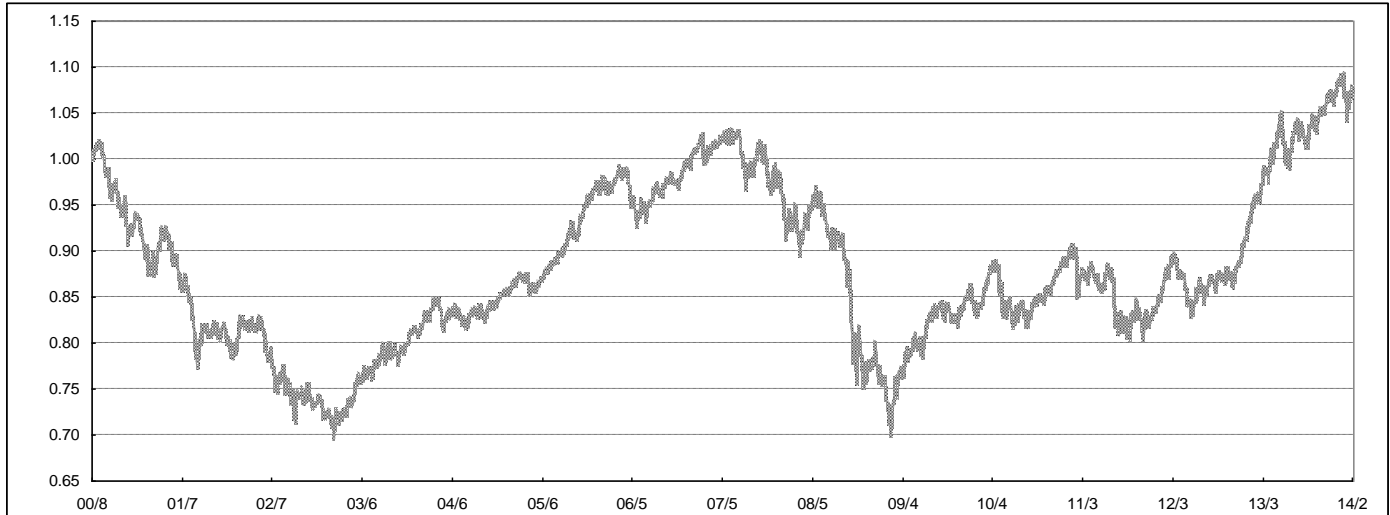
特別勘定の月次運用レポート (2014年2月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2014年2月 末日現在]

■特別勘定のINDEXの推移

※ 特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2014年2月末	2014年1月末	2013年12月末	2013年11月末	2013年10月末	2013年9月末
INDEX	1.072	1.064	1.085	1.073	1.052	1.040
騰落率(%)	過去1ヵ月 0.76	過去3ヵ月 ▲0.10	過去6ヵ月 6.06	過去1年 11.72	過去3年 19.49	設定来 7.24

※ 特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

※ 騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

■特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	1,861,196	4.5
その他有価証券	39,418,376	95.5
アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)	3,966,520	9.6
アクサ ローゼンバーグ・日本バリュウ株式ファンド(B)	5,970,873	14.5
アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)	6,656,209	16.1
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)	4,346,031	10.5
アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)	18,478,741	44.8
合計	41,279,573	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当月のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。

資産配分に関しては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)

今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

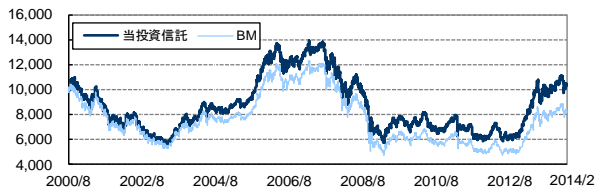
特別勘定の月次運用レポート (2014年2月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2014年2月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲1.09%	▲3.65%	9.93%	23.29%	32.22%	2.50%
BM	▲0.74%	▲3.73%	9.55%	24.19%	27.37%	▲18.27%
差	▲0.35%	0.09%	0.38%	▲0.90%	4.85%	20.77%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 輸送用機器	12.08%
2 電気機器	11.36%
3 銀行業	9.93%
4 情報・通信業	7.56%
5 小売業	6.92%
6 化学	5.85%
7 卸売業	5.61%
8 医薬品	4.54%
9 その他業種	34.96%
10 現金等	1.20%
合計	100.00%

○ 市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	98.80%
2 現金等	1.20%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.75%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.46%
3 ソフトバンク	情報・通信業	1.94%
4 日本電信電話	情報・通信業	1.88%
5 KDDI	情報・通信業	1.82%
6 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.75%
7 本田技研工業	輸送用機器	1.67%
8 キヤノン	電気機器	1.37%
9 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.34%
10 日立製作所	電気機器	1.05%
合計		21.01%
組入銘柄数		267銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲1.09%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前月末比▲0.74%となりました。当月の日本株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当ファンドでは、これらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことがマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で下落した小売を多めに保有していたことが、マイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で多めに保有していたシークス(7613)がプラスに寄与したものの、下落した名村造船所(7014)やコナカ(7494)を多めに保有していたことが、マイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ~8ページに記載されている「1~4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

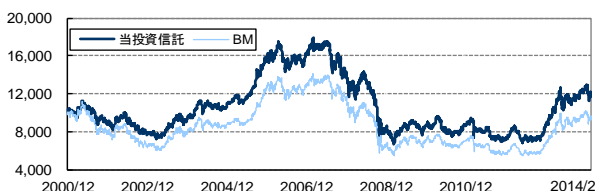
特別勘定の月次運用レポート (2014年2月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2014年2月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲1.10%	▲3.46%	10.58%	23.35%	30.34%	19.55%
BM	▲0.74%	▲3.73%	9.55%	24.19%	27.37%	▲6.02%
差	▲0.36%	0.27%	1.03%	▲0.84%	2.97%	25.57%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 電気機器	13.37%
2 情報・通信業	11.72%
3 化学	9.58%
4 輸送用機器	9.30%
5 銀行業	8.42%
6 医薬品	5.88%
7 小売業	4.84%
8 陸運業	4.84%
9 その他業種	31.27%
10 現金等	0.80%
合計	100.00%

○ 市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	97.57%
2 ジャスダック証券取引所	1.20%
3 東京証券取引所第二部	0.42%
4 名古屋証券取引所第一部	0.01%
5 名古屋証券取引所第二部	0.00%
6 現金等	0.80%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.41%
2 日本電信電話	情報・通信業	3.49%
3 トヨタ自動車	輸送用機器	3.31%
4 キヤノン	電気機器	3.13%
5 パナソニック	電気機器	3.09%
6 KDDI	情報・通信業	3.08%
7 NTTドコモ	情報・通信業	2.92%
8 東海旅客鉄道	陸運業	2.51%
9 オリックス	その他金融業	2.29%
10 富士フイルムホールディングス	化学	2.26%
合計		30.48%
組入銘柄数		115銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲1.10%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前月末比▲0.74%となりました。

当月の日本株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当ファンドでは、これらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことがマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で上昇した事務機器、移動体通信を多めに保有していたことが、プラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で下落した積水ハウス(1928)や名村造船所(7014)を多めに保有していたことが、マイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ~8ページに記載されている「1~4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

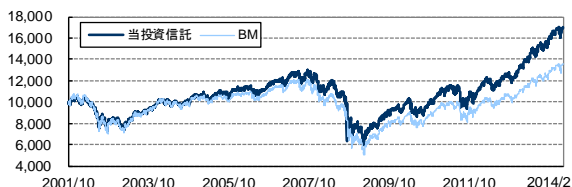
特別勘定の月次運用レポート (2014年2月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2014年2月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 〈適格機関投資家私募〉
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	3.60%	2.71%	14.72%	27.10%	53.94%	70.74%
BM	3.34%	2.54%	13.07%	22.07%	39.17%	35.80%
差	0.26%	0.16%	1.65%	5.03%	14.77%	34.94%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数²(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 ソフトウェア・サービス	13.05%
2 医薬品・バイオテクノロジー	10.34%
3 資本財	9.28%
4 エネルギー	8.66%
5 各種金融	7.26%
6 テクノロジー・ハードウェア	5.16%
7 食品・飲料・タバコ	4.61%
8 メディア	4.42%
9 その他業種	36.80%
10 現金等	0.41%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 GOOGLE INC-CL A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	2.58%
2 APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	2.42%
3 PFIZER INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	2.16%
4 EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	2.08%
5 WELLS FARGO & COMPANY	アメリカ	銀行	1.96%
6 MERCK & CO. INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	1.67%
7 ORACLE CORPORATION	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.49%
8 COMCAST CORP-CL A	アメリカ	メディア	1.43%
9 MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.35%
10 JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	各種金融	1.33%
合計			18.46%
組入銘柄数			218銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+3.60%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は、前月末比+3.34%となりました。

当月の米国株式市場は、市場全体に対し比較的堅調であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当ファンドでは、これらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことが、プラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇した医薬品や防衛関連を多めに保有していたことが、プラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で上昇した小売のPriceline. Com Incや医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンスのMylan Incを多めに保有していたことが、プラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ~8ページに記載されている「*1~*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

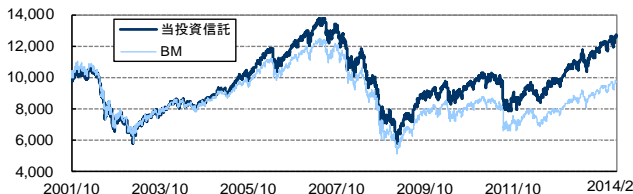
特別勘定の月次運用レポート (2014年2月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)の運用状況

[2014年2月 末日現在]

■ 当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

■ 当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	4.09%	3.06%	11.56%	18.67%	25.31%	26.19%
BM	3.97%	2.72%	10.25%	14.57%	13.02%	▲3.18%
差	0.12%	0.34%	1.31%	4.10%	12.29%	29.37%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数³(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■ 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) (適格機関投資家私募)

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーク・欧州株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■ マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 国別構成比率

順位	国名	マザーファンド
1	イギリス	29.74%
2	フランス	14.74%
3	ドイツ	14.38%
4	スイス	12.80%
5	オランダ	6.29%
6	スウェーデン	5.05%
7	スペイン	4.54%
8	イタリア	2.63%
9	その他の国	8.90%
10	現金等	0.93%
合計		100.00%

○ セクター別構成比率

順位	セクター	マザーファンド
1	医薬品・バイオテクノ・ライフ	12.44%
2	銀行	10.40%
3	資本財	9.77%
4	食品・飲料・タバコ	8.72%
5	エネルギー	7.79%
6	電気通信サービス	6.76%
7	素材	6.48%
8	保険	6.30%
9	その他業種	30.42%
10	現金等	0.93%
合計		100.00%

○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	2.99%
2	GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.52%
3	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.51%
4	BP PLC	イギリス	エネルギー	2.23%
5	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.02%
6	DAIMLER AG	ドイツ	自動車・自動車部品	1.98%
7	SIEMENS AG	ドイツ	資本財	1.95%
8	ROCHE HOLDING AG-GENUSS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.81%
9	ASTRAZENECA PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.79%
10	TELEFONICA S.A.	スペイン	電気通信サービス	1.19%
合計				20.99%
組入銘柄数				193銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■ 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+4.09%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は前月末比+3.97%となりました。

当月の欧州株式市場は、配当利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当ファンドでは、これらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことがプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で下落した航空機や小売を多めに保有していたことが、マイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で上昇した自動車・自動車部品のValeo(フランス)や資本財のThe Weir Group Plc(イギリス)を多めに保有していたことが、プラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 4ページ~8ページに記載されている「*~*」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

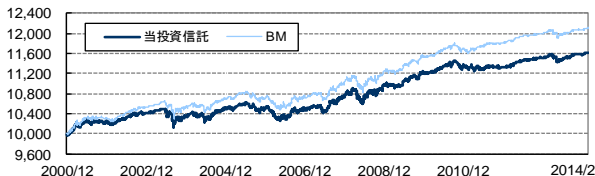
特別勘定の月次運用レポート (2014年2月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)〈適格機関投資家私募〉の運用状況

[2014年2月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.14%	0.22%	0.77%	0.52%	2.62%	16.24%
BM	0.13%	0.24%	0.73%	0.52%	3.97%	21.14%
差	0.01%	▲0.03%	0.04%	▲0.00%	▲1.35%	▲4.90%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス(総合⁴、中期3年以上7年未満)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	4.56年	98.79%
国債	5.44年	72.50%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	1.31年	5.73%
金融債	0.74年	0.94%
社債等	2.47年	19.62%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等*	0.00年	1.21%
合計	4.51年	100.00%

* 債券先物を含みます。

※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	86.14%
A	10.95%
BBB	2.91%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準:

※ 海外格付機関の格付を優先します。

※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付を採用します。

○組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	第303回利付国債(10年)	日本	1.400%	2019年9月20日	Aa3	AA-	8.51%
2	第326回利付国債(10年)	日本	0.700%	2022年12月20日	Aa3	AA-	6.31%
3	第106回利付国債(5年)	日本	0.200%	2017年9月20日	Aa3	AA-	5.80%
4	第305回利付国債(10年)	日本	1.300%	2019年12月20日	Aa3	AA-	5.46%
5	第322回利付国債(10年)	日本	0.900%	2022年3月20日	Aa3	AA-	4.84%
6	第300回利付国債(10年)	日本	1.500%	2019年3月20日	Aa3	AA-	3.93%
7	第109回利付国債(5年)	日本	0.100%	2018年3月20日	Aa3	AA-	3.26%
8	第315回利付国債(10年)	日本	1.200%	2021年6月20日	Aa3	AA-	2.97%
9	第295回利付国債(10年)	日本	1.500%	2018年6月20日	Aa3	AA-	2.96%
10	第298回利付国債(10年)	日本	1.300%	2018年12月20日	Aa3	AA-	2.95%
合計							46.99%
組入銘柄数							46銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比+0.14%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス(総合、中期3年以上7年未満)は前月末比+0.13%となりました。米国では、1月の非農業部門雇用者数やISM製造業景況感指数等の経済指標が弱含んだことが懸念されましたが、寒波などによる一時的な影響として考えられました。これらを背景に米国国債の利回りは、ほぼ先月と同水準で月を終えました。一方で日本では、第3四半期の国内実質GDPが予想を下回ったことが懸念されたことに加えて、新興国への警戒感やウクライナ情勢の緊迫化などを受けて、日本国債の利回りは0.04%低下し0.58%となりました。なお為替は、やや円高となりました。当月の当投資信託は、前月からの戦略を維持した結果、ベンチマークをやや上回るリターンとなりました。委託会社は日銀による追加緩和と観測等を背景に、日本国債市場はレンジ内での取引が当面続くことと予想しています。今後の当投資信託の方針としては、イールドカーブ戦略では平坦化を見込む戦略を維持する予定です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

○ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	0.27%
平均クーポン	1.14%
平均残存期間	4.66

※ 「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下東証東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証東京証券取引所が有しています。
東証東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

○変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて

①市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

契約月別の運用実績の例

(一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合)

契約日	終身型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成12年 8月 1日	1,000	-494	7.24	0.52
平成12年 9月 1日	1,000	-501	5.66	0.41
平成12年 10月 1日	1,000	-479	8.68	0.62
平成12年 11月 1日	1,000	-461	11.14	0.80
平成12年 12月 1日	1,000	-440	13.97	0.99
平成13年 1月 1日	1,000	-422	16.49	1.17
平成13年 2月 1日	1,000	-432	14.36	1.03
平成13年 3月 1日	1,000	-398	19.25	1.36
平成13年 4月 1日	1,000	-378	21.92	1.55
平成13年 5月 1日	1,000	-401	18.04	1.30
平成13年 6月 1日	1,000	-393	18.77	1.36
平成13年 7月 1日	1,000	-380	20.41	1.48
平成13年 8月 1日	1,000	-354	23.96	1.72
平成13年 9月 1日	1,000	-316	29.28	2.08
平成13年 10月 1日	1,000	-270	35.90	2.50
平成13年 11月 1日	1,000	-285	33.11	2.35
平成13年 12月 1日	1,000	-289	31.88	2.28
平成14年 1月 1日	1,000	-289	31.47	2.27
平成14年 2月 1日	1,000	-262	35.06	2.52
平成14年 3月 1日	1,000	-269	33.55	2.44
平成14年 4月 1日	1,000	-282	31.12	2.30
平成14年 5月 1日	1,000	-275	31.70	2.35
平成14年 6月 1日	1,000	-276	30.94	2.32
平成14年 7月 1日	1,000	-240	36.01	2.67
平成14年 8月 1日	1,000	-206	40.73	2.99
平成14年 9月 1日	1,000	-203	40.73	3.02
平成14年 10月 1日	1,000	-174	44.73	3.29
平成14年 11月 1日	1,000	-171	44.71	3.31
平成14年 12月 1日	1,000	-183	42.20	3.18
平成15年 1月 1日	1,000	-156	45.93	3.44
平成15年 2月 1日	1,000	-130	49.41	3.69
平成15年 3月 1日	1,000	-123	50.00	3.75

契約日	終身型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成15年 4月 1日	1,000	-118	50.18	3.80
平成15年 5月 1日	1,000	-133	47.12	3.63
平成15年 6月 1日	1,000	-146	44.59	3.49
平成15年 7月 1日	1,000	-163	41.55	3.31
平成15年 8月 1日	1,000	-171	39.75	3.21
平成15年 9月 1日	1,000	-178	38.20	3.13
平成15年 10月 1日	1,000	-178	37.59	3.11
平成15年 11月 1日	1,000	-187	35.71	3.00
平成15年 12月 1日	1,000	-183	35.93	3.04
平成16年 1月 1日	1,000	-191	34.09	2.93
平成16年 2月 1日	1,000	-201	32.18	2.81
平成16年 3月 1日	1,000	-210	30.31	2.68
平成16年 4月 1日	1,000	-221	28.22	2.54
平成16年 5月 1日	1,000	-218	28.17	2.56
平成16年 6月 1日	1,000	-208	29.29	2.67
平成16年 7月 1日	1,000	-216	27.54	2.55
平成16年 8月 1日	1,000	-199	29.62	2.74
平成16年 9月 1日	1,000	-197	29.36	2.75
平成16年 10月 1日	1,000	-195	29.15	2.75
平成16年 11月 1日	1,000	-190	29.43	2.80
平成16年 12月 1日	1,000	-199	27.74	2.68
平成17年 1月 1日	1,000	-210	25.60	2.52
平成17年 2月 1日	1,000	-208	25.47	2.53
平成17年 3月 1日	1,000	-218	23.49	2.37

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

(2) 契約月別運用実績は、契約時点で特別勘定に投入した金額の平成26年2月末までの運用実績を示したものです。なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

(3) 年複利は契約月別運用実績を年複利換算したものです。

(4) 終身型は、平成17年3月31日で販売終了しています。

(5) 有期型は平成14年10月31日で販売終了しています。平成24年10月31日で全ての契約が保険期間を満了しました。